

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

アンケート実施期間:2024年12月
結果公表日:2025年3月27日

回答率

事業所職員: 5名回答、回答率 100%
保護者様: 17名回答、回答率 89%

職員の意見

○環境・体制整備

- ・個別課題、自由時間など1人の職員のみが見ることのないよう、偏りのない支援を行っている。
- ・気持ちが落ち着かない時には、仕切りがある空間に移動するなど該当児童以外の児童に配慮した声掛けを実施している。
- ・小さいスペースはあるが、既に使用されているとクールダウンできる場所が確保できないため、環境作りを検討したい。

○業務改善

- ・業務前ミーティングや支援終了後など、1人1人が意見を発信できる場を設け、あがった意見は業務に取り入れるなど、支援方法を錯誤しながら改善に繋げる工夫を行っている。
- ・階層別研修や組織人研修等、法人内の研修を受講し資質向上に努めている。

○適切な支援の提供

- ・心理士の意見も反映しながらプログラムや支援計画を作成している。
- ・職員全員が1人1人の子どもの支援に携われるよう、日々担当や配置を入れ替え、現在の様子や課題を把握したうえで支援を行っている。
- ・幅広い領域に沿った活動に取り組めるよう、SSTや運動など、曜日が固定しないように設定し活動を立案している。
- ・職員の決定ではなく、特性に応じて2択や3択に絞るなど、こどもが自ら決定できる機会を設けている。

○関係機関や保護者との連携

- ・地域の他事業所との会議や情報交換の場に参加し、業務や支援改善に繋げている。
- ・職員だけでなく、保護者も参加できる研修があり、共有があれば随時ご案内をしている。
- ・児童館や地域のこどもと活動する機会を設けていきたい。また地域の保健医療、教育機関との連携する機会を作っていきたい。

○保護者への説明責任等

- ・契約時には書面と口頭での説明を徹底している。内容変更が生じた場合は都度説明をしている。
- ・どのような支援を実施しているのか、目的や流れを説明し、ご納得頂いた上でご利用をいただいている。
- ・半年に1回療育参観・保護者会を設け、療育の様子を現場でお伝えしている。保護者会を開催する時は、保護者同士での関わりが持てるように配置を考えている。

○非常時等の対応

- ・安全管理に必要な研修を受け、職員間でも周知する体勢を整えている。
- ・毎月1回避難訓練の活動を実施し、緊急時の対応について確認を行っている。
- ・基本情報シートに服薬の有無、アレルギーの有無等を記載いただいている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

・活動スペースに関する質問では、6割以上の方から「はい」とご回答をいただいたが、「クールダウンできる部屋や身体を動かせる場所があれば尚良い」「1日の全体の利用者数が分からない為」といったご意見もあり、「どちらともいえない」のご回答が若干数見られた。

○適切な支援の提供

・適切な支援の提供に関する質問では、ほとんどの項目で8割以上の方から「はい」と高い評価をいただけており、肯定的なご意見を多くいただくことが出来た。
・『放課後児童クラブや児童館など、地域の他の児童と交流する機会があるか』という質問には、「少ないと思います」や「たくさん増えると良いと思う」といったご意見をいただいた。

○保護者への説明等

・『事業所を利用する際に丁寧な質問があったか』『日頃から子どもの状況を伝えあい、共通理解が出来ているか』などの質問に関しては、全てのご回答者から「はい」の意見をいただくことが出来た。
・『保護者会の開催や交流の場、きょうだい向けのイベント開催がされているか』という質問のご回答はバラつきが見られ、「機会が欲しい」というご意見を複数いただいた。

○非常時等の対応

・『複数のマニュアルが策定され、保護者に周知・説明されているか』の質問は、7割以上の方に「はい」とご回答をいただいた。
・『事故発生時の状況説明や連絡がされているか』に関して、約6割の方に「はい」とご回答いただいている一方で、「まだ経験がないため」という理由でどちらともいえない・わからない」というご回答も見られた。

○満足度

・『こどもは安心感をもって通所しているか』の質問には全ご回答者から「はい」とご回答いただいた。
・『こどもは通所を楽しみにしているか』の質問に対して、7割以上の方に「はい」とご回答いただいた一方で「気分で行きたくない時がある」「動画やゲームをしていると行き渋る」などのご意見も複数いただいた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・他事業所などでの児童の様子をお伺いし、状況に応じて関係機関と支援会議を行なう。
・高学年のご利用者も増えてきたことから地域の中学校や支援学校、就労支援事業所とも連携を行ない、進路選択について情報収集を行なうとともに、就学時にスムーズに移行できるよう連携を行なう。
・集団療育の中で個別の目標設定をより適切に行うために、児童それぞれに役割を与えるなどの工夫を取り入れる。
・保護者会を実施し、教室での療育の様子の報告や保護者同士の交流の場を年2回設ける。

○改善できた点・まだ残る課題

・関係機関との支援会議を行なうことで、児童の様子など情報共有の場を設けることが出来た。
・こども部会の参加などで、他機関との連携を取ることが出来たが保護者への共有までをもう少し工夫する必要があると感じた。
・保護者会を半年に1回で実施する事が出来たが、アンケートからより保護者同士が交流しやすい工夫を考えていく必要があると感じた。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・心理師の意見を取り入れた支援計画の作成と、丁寧な説明を心掛けている。
- ・様々な学年の子どもがいる中で、長くご利用頂いている子どもには集団活動や1つ1つの行動において見本になってもらうことが多く、学年問わず子ども同士での関わりを作る機会を設けている。
- ・マニュアルや非常時の対応などの事業所に関する情報の説明をお便りと口頭で行なっている為、説明がしっかりと行なえており、ご満足いただけている。

○改善点

- ・空間の使い方・配置によって、教室が狭く感じるケースがある。場面・利用者人数に応じて机の配置を変える、机を相談室にしまうなど、窮屈だと感じさせない環境作りを行っていく。
- ・保護者会の開催や保護者交流の機会を半年に1回など定期的に行ない、新規のご利用者さまにも保護者同士やご兄弟の交流の機会を設定する。
- ・生活空間などの工夫が伝わるように送迎以外での発信機会を設ける。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・すべての保護者様やご利用者様が安心して楽しく過ごせる環境を維持し、ご利用者様の成長につながる支援体制を整え、利用者へ伝わりやすい発信方法を検討していく。
- ・新たな取り組みについては、職員間で目的理解・共通認識を持った上で支援を実施し、送迎や口頭での説明を心掛ける。
- ・保護者会の開催で、保護者同士の交流だけでなく事業所の取り組みや支援の工夫を伝える機会を定期的に設けていく。

○1年間で取り組む具体策

- ・今後も多くの保護者様にスマートキッズでの取り組み・具体策を知っていただけるよう、年2回を目安に保護者会や療育参観を継続して実施する。
- ・日頃の療育の様子や活動内容などをもとにしたブログを月1回以上アップする。
- ・新たに始まったプログラムや連携について、丁寧に説明し、保護者様にとってより相談しやすい環境をつくる。
- ・学校や他事業所との地域情報交換会に積極的に参加し、そこで得た情報を保護者様に共有し満足度向上に繋げる。

スマートキッズ